

事務 事業名	コード1	22400	農業振興事務費	課	農水産課				
	コード2	①	産業まつり	所属班	振興班				
			☐ 主要事業	電話番号	68-1174	内線	237		
施策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	予算科目	会計		款	項	目
	施策	1	農業の振興		一般会計		6	1	3
	施策の展開	5	交流事業の促進	根拠法令	旭市補助金等交付規則				
	基本事業	272	産業まつりの開催						

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイベント等を行う。 各会場でテーマを設定している。 旭会場(文化の杜公園)「花」 干潟会場(干潟中学校校庭)「餅と畜産物」 海上会場(コミュニティ公園)「野菜」 ※H25 旭・干潟合同開催(文化の杜公園) 実施団体:旭市産業まつり実行委員会、ふるさとまつり・ひかた実行委員会、海上産業まつり実行委員会 実施時期:11月 時間:午前10時～午後2時 【業務の流れ】 まつり開催にあたり、実行委員会議の開催、イベント業者との契約、出演者交渉、出店者募集、出店者会議、交通指導員や警察との 打合せ、各種申請、開催PR、当日の各種イベント運営を行う。(農水産課振興班が事務局となる)

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.いさいき旭・産業まつり補助金	2,894
2.海上産業まつり補助金	3,726
3.ふるさとまつりひかた補助金	2,894
	0
	0
【前年度比増減理由】 イベント業務委託料の増額による増	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
3人×3h×40日×2回=720h(班員事務)	
17人×8h×2回=272h(前日準備)	
28人×8h×2回=448h(当日:課事務員)	
225人×8h=1,800h(当日:他課職員)	
合計	3,240h

費目内訳	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.いさいき旭・産業まつり補助金	千円	4,416	2,853	2,894	4,500
2.海上産業まつり補助金	千円	2,682	2,636	3,726	3,500
3.ふるさとまつりひかた補助金	千円	3,000	2,002	2,894	3,500
	千円				
事業費計(A)	千円	10,098	7,491	9,514	11,500
うち一般財源	千円	10,098	7,491	9,514	11,500
正規職員従事人数	人	2,68	2,10	1,61	1,61
延べ業務時間	時間	5,410	4,232	3,240	3,240
人件費計(B)	千円	20,558	16,082	12,312	12,312
トータルコスト(A)+(B)	千円	30,656	23,573	21,826	23,812

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 旭会場(旭と干潟合同開催)、海上会場の2箇所で開催。 農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイベント等を行った。 26年度計画(26年度に計画している主な活動) 旭会場(旭と干潟合同開催)、海上会場の2箇所で開催。 農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイ	ア 開催回数 イ シャトルバス運行本数 ウ チラシの配布数	回 便 枚	3 348 69,000	3 263 69,000	2 284 45,000	2 246 45,000
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	旭市民及び近隣住民	ア 人口(4月1日現在) イ 近隣の人口(銚子市、匝瑳市、香取市、東庄町)	人 人	69,749 209,063	69,223 206,083	68,725 206,347	68,241 203,180
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・交流して、楽しみ、相互の連帯感を持つことができる。 ・市の農水産物・商工業製品を知る。 (できれば買ってもらう。)	ア 来場者数 (産業まつりのPR効果や交流の場として機能しているかを見ることができる) イ 出店者数	人 団体	100,000 416	85,000 309	100,000 245	100,000 245
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・市内外の人との交流によって、旭の魅力を十分に発見し・味わってもらうことで、市のイメージアップへ繋げる ・農水産業のみならず市内の観光・商業の活性化へ広げる。	ア 農業交流人口 ※後期基本計画P90 イ 観光客入込数	千人 千人	101 909	- 1,277	- 1,310	- -

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併前の各市町村(3市町)においてそれぞれの地域の産業の振興と、地域住民の相互のふれあいを成就するため。旧旭は農協中心の祭りに昭和59年に市が加わった。旧海上は昭和62年から。旧干潟は昭和62年から。	合併後9年が経過し、旭市全体での一体感の醸成が必要になっている。平成25年度は会場の都合もあり旭・干潟は合同で開催し、海上は単独で行った。当日協力可能な職員数は減少している。	合併後9年が経過し、市民の一体感を醸成するために同様のまつりなので一本化してはどうか。3つのまつりを一本化するにあたり、「海上はイベントが何もないので会場を海上にしたい。」といった意見がある。

事務事業名	農業振興事務費 産業まつり	課名	農水産課	班名	振興班
-------	------------------	----	------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 産業まつりは、農水産物等の展示即売等を行っており、市民等にPRするとともに、生産者と消費者の交流を図っているため。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象は現状の交通アクセス状況を考えれば妥当である。意図についてもまつりとして適切である。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 運営に関しては実行委員会が確立し、主体性を持ち独自に運営をしていったほうが良いと思われる。地域の団体にも関与してもらうべきである。
	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 天候等の条件により増減はあるが、一定の来場者数は維持しており、近隣市町より出展者数、来場者数も多い為、妥当である。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 合併後9年が経過し、そろそろ旭市全体の一体感の醸成のため、1本化するべきである。(旭、干潟を合同開催したが、全体としての来場者数は維持している。一本化すれば、規模が拡大でき、コストも下げられる。)また、シャトルバスは乗り場、時間帯を考慮した上で、本数を増やせば来場者数の増加にはつながる。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (1) 事務事業名：(他イベント) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他のイベントと連携することは可能と思われる。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 一本化すれば規模を拡大してもコスト削減になる。また、キャラクターショー・ステージなどの内容の見直しによっても事業費の削減余地はある。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 一本化すれば当日職員の人件費をかなり削減できる。また、実行委員会(幹事会)の各団体に協力を求める。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民誰もが参加できるイベントなので妥当と考える。出展者についても、市内及び近隣市町以外を区分し、24年度から出店制限を行ったことで、公平性を確保している。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	事業の総論としては妥当と思われるが、運営方法、開催時期、開催回数など見直す余地がある。特に運営にあたる市職員の関与は減らすべき。負担金を上げることは難しい。駐車場の問題がある。「産業」の観点では、工業関係者が少ない。キャラクターショーなどの中身も見直したい。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:他のイベント) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		</
--	--	--